

# I. ごあいさつ

「平成 28 年熊本地震」で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

阪神電車をご利用いただくとともに、阪神グループにご愛顧を賜りまして、誠にありがとうございます。また、平素より当社鉄道事業の運営にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成 27（2015）年度の安全対策として、踏切道の除却を目的とした高架化工事のほか、安全性と快適性の向上を目的とした駅改良工事・新型車両の導入に重点的に取り組んでまいりました。

神戸市内及び西宮市内における高架化工事は、それぞれ下り線（神戸三宮方面行き）を高架線路に切り替えることにより、踏切道は上り線（梅田・大阪難波方面行き）のみとなり、遮断時間を短縮するとともに、列車運行の保安度も向上しました。西宮市内の高架線路は平成 29（2017）年春頃に完成する予定で、同市内の本線の踏切道は全て除却されることとなります。神戸市内の高架化工事につきましても、一日も早く踏切道を除却できるよう鋭意工事を進めてまいります。

甲子園駅改良工事では、甲子園球場でのプロ野球等の開催時にも、お客様に安全・快適にご利用いただけますよう、ホームを拡幅し、混雑緩和を図りました。また、梅田駅につきましても、現在進めている改良工事により、ホームの拡幅や可動式ホーム柵等の設置をする予定です。

これらの工事におきましては、引き続き、国土交通省や地元自治体、ご利用されるお客様や近隣の皆様方のご理解とご協力を得て進めてまいります。

また、新型車両 5700 系は、普通用車両として 20 年振りのフルモデルチェンジを行いました。安全性に加え、“人へのやさしさ、地球へのやさしさ”をコンセプトとしております。

一方、施設や車両の保守管理及びこれらを担う係員の教育・訓練についても、その管理方法・作業手順の再確認を行い、実施結果と管理状況を確実に把握することで、安全管理の水準向上に努めました。併せて、列車運行や現場作業での安全に関わる気づきを事故の未然防止に役立てる仕組みである「安全目安箱」を活用する取組みも継続して実施いたしました。

ハードとソフトの両面から鉄道輸送の安全確保に取り組むことにより、平成 27（2015）年度におきましても、安全目標であった「責任事故ゼロの継続」を達成し、国土交通省近畿運輸局長から 30 年 11 か月間の責任事故皆無に対する表彰をいただくことができました。更に、平成 27（2015）年 10 月に実施されました「運輸安全マネジメント評価」においても、安全管理体制の構築や種々の安全施策への取組みに対して、一定の評価をいただいたところです。

これからも、皆様に安心してご利用いただけますよう全役員・社員が一丸となり、安全への取組みを継続し、更なる安全性の向上に全力で邁進してまいります。



阪神電気鉄道株式会社  
取締役社長

藤原 崇起

平成 28 年 7 月